

第2回 学校運営協議会 会議録

1、会長挨拶

調整役を行います。

今日は、①学校の経営方針 ②ヤマトの日の関わり方 ③今後の在り方について話し合います。意見を聞きながら、役に立つようにしていきたいと思います。

2、校長より

- ・協議会規則 13 条から議決または修正していきます。
- ・大和地域の子どもたちに力をつけてどんな大人にしたのが共有していきたい。
- ・小学校が一つになります。「自立・共生」の目的に向かっていきます。
- ・「かいしょがあって間に合う」向かう方向を共有して進んでいきたい。
- ・方針は、大きく四つの重点で行う。(資料)

3、質問等

- ・目的に共感する
- ・地域の関わりの方が大事。方法手段を考える必要があるが目標は賛成。
- ・学校での知識は成績表。体験しているがこれまで評価されなかった。昔は「これは任せとけ」というような子もいた。それぞれの場で力・体験値を付けてほしい。目標賛成。
- ・目標のみでは分からない。公民館として何が出来るか。学校の動きはどうか。何を手伝うか。子供が企画からかかわることができないか。
- ・地域の方がどう思うのか。4つの重点に合わせて公民館で創出してほしい。夏祭りの実行委員会に子供を入れてほしい。公民館の委員に中学生を入れてほしい。まず、それは何のためにやりたいのか。地域でも何をして欲しいのか。どこへ向かって何のためにしていくのか。要求するばかりではなくて、互いに考える会にしたい。
- ・まず動くこと。
- ・今回は、学校の方針の承認について考える。
- ・「かいしょがあって間に合う」というのは、誰にとっても間に合うのか。
- ・「～だからダメだよ」では自分の危機管理能力が育たない。失敗を恐れてはいけない。萎縮をしないよう、自分の経験を先に出し、修正していくということを大事にしたい。
- ・自分に間に合うことは何か。自分で気づける子になって欲しい。地域の参加は、部活が少なくなると大変だと思う。小学校は統合するが、どうするか。それぞれ立ち上げてももったいない。
- ・大人になって体験をしていかないと身につかない。小さい頃、自分の子供達も部活で忙しかった。
- ・幹の中から枝葉を見つけて、こんな風にしたい。まず目標の思いで進めましょう。
- ・これからの教育に人権の視点が一番にすると良いのではないか。
- ・これまでの評議員は、学校に任せることをしていたが、これからは作っていかなければならない。これから意見を出していきたい。まずは、よしとして進む。

学校経営方針承認

4、「やまとの日」について

- ・「my やまとの日カード」を、地域清掃プロジェクトに生かしてほしい。
- ・「かいしょがあって間に合う」この育成のつもりで見えていただきたい。
- ・年間で「my やまとの日カード」を共有していきたい。
- ・「やまとの日」の始まりは、雪かきから。地域の方と関わる日としている。生徒の住まうところの掃除は、昨年から行なっている。
- ・他の職員も各地区の自治会と打ち合わせ、触れ合う機会にしていきたい。地域でも、声かけして頂きたい。現在、チラシや広報無線。ケーブルテレビでも行う。地域の方々が「知っていれば言ったのに」ということがないようにしている。蛍光館の掃除も行う。
- ・大人の会に子どもの声を届けることができるとよい。
- ・色々な自治会があるが教育とか中学生の弟が考える人はあまりいない。

- ・チラシは手で配ると良い。チラシ配りの効果的な方法の一つである。
- ・人数が少なくて失敗ではなく、少なくとも少数精鋭という考えがよい。企画で3年2年1年の繋がりが、毎回同じこと考えて、だんだん手を先生が離れていくとよい。
- ・将来的には、小学校に行っていくといい。責任を持って行動するようにしたい。

4、終わりに

蛍光館の生い立ちは、県の補助事業でできた。カワニナやホタルの産卵とつながりがある。

大和で見る蛍や「ももちどり」にも万場から広がっている。

生徒から清掃をどう広げるか、運営協議会でも考えていきたい。